

原著 (研究)

薬剤師によるサプリメント説明における 来局患者の期待と説明実態との間の大きなギャップ

The large gap between customer expectations and actual explanations of supplements by pharmacists

野田敏宏^{a,b,k} 新敷祐士^d 安西恵子^{b,c} 川崎啓子^{*c} 栗原智仁^{b,*c}
高市和之^{b,e} 高野紀子^f 中村峰夫^{b,g} 西野健三^h 山田和也ⁱ
平井みどり^j 田崎嘉一^k 松原和夫^{**k} 吉山友二^{b,l} 井関 健^{b,m}

Toshihiro Noda^{a,b,k}, Yuji Arashiki^d, Keiko Anzai^{b,c}, Keiko Kawasaki^{*c}, Tomohito Kurihara^{b,*c},
Kazuyuki Takaichi^{b,e}, Noriko Takano^f, Mineo Nakamura^{b,g}, Kenzo Nishino^h, Kazuya Yamadaⁱ,
Midori Hirai^j, Yoshikazu Tasaki^k, Kazuo Matsubara^{**k}, Yuji Yoshiyama^{b,l}, and Ken Iseki^{b,m}

要 旨

目的：本研究ではサプリメント類の利用に関して来局患者および薬剤師両者の意識および実態を明らかにすることにより、サプリメント類利用における薬剤師の関わり方を検討した。

方法：東京都・北海道内の14保険薬局にて来局患者1,253人を対象に、サプリメント類に関するアンケート調査を来局時に実施した。また、薬剤師289人に対してサプリメント類に関する意識および情報収集の実態について、保険薬局および北海道薬学大会（2011年・札幌）においてアンケート調査を実施した。

結果：来局患者からの回答数1,253人のうち、約50%は薬剤師にサプリメント類の安全性や効果についての情報提供を望んでいるものの、実際には薬剤師が来局患者の疑問に答えている例は7.3%にしかすぎないことが明らかとなった。

一方で、回答を得られた薬剤師289人のうち67.5%の薬剤師は自身がサプリメント類の情報提供者として来局患者に期待されていると認識しているものの、サプリメント類の情報収集に積極的に取り組んでいる薬剤師は約30%であり、さらにその情報内容もインターネット上の情報に頼っていることが示された。

結論：サプリメント類の説明に対する患者の期待と薬剤師による説明の実態には、大きな隔たりがあることが分かった。来局患者の期待に応えるためにも、薬剤師はサプリメント類に対し科学的根拠に基づく理解を深め、医薬品との関連を含めた統合管理の必要性が求められる。

Abstract

Objective : In this study, we conducted a survey on both the use of supplements by customers and information provided by pharmacists, to clarify customer understanding. We also sought to ascertain the actual current state of information provided by pharmacists to customers, as well as investigating both how, and to what extent, pharmacists should be involved in customers' use of supplements.

Methodology : During regular pharmacy visits, pharmacists used a questionnaire to interview 1,253 customers, in 14 community pharmacies, in Tokyo and Hokkaido, respectively. A different questionnaire, designed for pharmacists, was also given to 289 pharmacists who were either working in those same pharmacies, or who attended the Conference on Pharmaceutical Sciences in Hokkaido (2011, Sapporo).

Results : The results of the survey showed that approximately 50% of consumers greatly desired the provision of safety and efficacy information about supplements by pharmacists. However, few pharmacists answered customers' questions satisfactorily (only 7.3% of total responses).

The results also indicated that only 30% of pharmacists actively gathered information about supplements, despite the fact that 67.5% of pharmacists were aware that they were expected to do so by customers, in their roles as primary information providers regarding such treatments. Furthermore, even those pharmacists who checked information regarding supplements depended mostly on information acquired from the Internet.

Conclusion : There is a large gap between customers' expectations for explanation of supplements and the reality of such explanations, and the information actually provided by pharmacists. In order to live up to their customers' expectations, pharmacists should foster both wider dissemination and better understanding of evidence-based information about supplements. Pharmacists should also provide integrated management of drugs and supplements for patients.

Key words : サプリメント, 薬剤師, 保険薬局

^a著者連絡先：野田敏宏 十仁薬局（〒070-0031 旭川市一条通8丁目）e-mail：zyuuzin@rose.ocn.ne.jp

^b健康食品情報研究会；^cまるんグループ；^d水島薬局3・10店；^e二十四軒薬局；^f(株)ツルハ；^g中村薬局；^hひまわり薬局；ⁱ東明調剤薬局；^j神戸大学医学部附属病院；^k旭川医科大学病院薬剤部；^l北里大学薬学部；^m北海道大学大学院薬学研究院

*現在：(株)ルンル **現在：京都大学医学部附属病院薬剤部
(受付日：2010年11月30日，受理日：2012年11月1日)

緒言

近年、登録販売者制度の制定、医薬品のスイッチOTC化といったセルフメディケーションの推進が図られている。自己の健康を保持増進していくために、サプリメントや各種健康食品（以下、サプリメント類）の使用を取り入れていくことは、個人・家族・地域の中で継続的に展開される医療であり、プライマリ・ケアの一端であると考えられる。

現在、日本におけるサプリメント類の市場規模は約1兆円¹⁾に達しているが、「健康食品」という用語は法令上の定義がなく、厚生労働省では「広く、健康の保持増進に資する食品として販売・利用されるもの全般」とされている²⁾。その為、サプリメント類に関する情報には販売促進のために作り出した情報や恣意的に収集・解説された情報が散見され³⁻⁴⁾、その結果、消費者に過剰な期待を与えかねない表記や製品讚美に終始した広告が氾濫、フードファディズム⁵⁻⁶⁾として問題視され、実際に健康被害や医薬品と相互作用が起こった例も報告されている⁷⁻⁸⁾。

保険薬局の薬剤師は来局患者の健康に寄与するために、これら製品に対する使用者ニーズの把握³⁾と科学的根拠の理解、適正使用の指導・推進に取り組む必要がある。このような現場での実情に則した情報構築の一環として、著者らはこれまでにCoQ10含有サプリメント類についての問題点と解決法について検討し、その成果を情報誌「あるたな」（健康食品情報研究会、季刊情報誌）にて報告してきた⁹⁾。

一方で、民間資格など薬剤師以外の職種がサプリメント類の説明に関与しているため、保険薬局の薬剤師の職能としてサプリメント類に対する総合的な判断・指導が含まれることが来局患者に認識されておらず、さらに、サプリメント類の使用状況に関して来局患者の意識は低く、医療従事者に来局患者のサプリメント類の使用が伝わらないなど、患者・医療従事者間のコミュニケーションの問題¹⁰⁾から薬剤師の職能を活かせていない可能性がある。

これまでのサプリメント類の使用に関連する先行研究に関しては、サプリメント類の消費者による使用実態に関する報告¹¹⁻¹²⁾や、薬剤師の行動実態に関する報告¹³⁾がある。しかし、患者の質問・期待に応えるための薬剤師による行為・情報収集が患者の期待通りのものであるかという視点に立った報告はない。そこで、我々は本研究でサプリメント類に対する来局患者の意識や使用実態調査および薬剤師の認識・情報収集の実態に関する調査を行い、来局患者との意識と実態を比

較した。また、本研究からサプリメント類利用における保険薬局薬剤師の関わり方と問題点について考察を行った。

方法

1. 調査対象

2008年3月1日から6月30日の期間「サプリメントに関するアンケート」を東京都内10保険薬局（八王子、羽村、立川、町田）および北海道内4保険薬局（札幌、旭川、帯広、岩見沢）に来局した患者のうち、同意の得られた患者について実施した。薬局は、本計画に賛同の得られた薬局で行っており、無作為に選択している。

薬剤師のサプリメント類に対する意識調査については、上記アンケートを実施した保険薬局に勤務する薬剤師、および2011年5月22日の北海道薬学大会（札幌）に出席した薬剤師を対象に行った。

2. 調査項目および調査方法

来局患者におけるサプリメント類の使用状況と、医療職に対する期待を把握するため、アンケート（表1）を受付で配布し、その場で回収した。調査項目は、年齢、来局患者のサプリメントに関する使用実態について、サプリメントに対する来局患者の意識および満足度について、来局患者の抱くサプリメントに関する情報提供者としての医療職の位置づけとした。サプリメント類の選定基準・使用目的については、サプリメント類の使用経験の有無に関わらず調査し、購入場所についてはサプリメント類使用経験者のみに質問した。

薬剤師に対しては、サプリメント類の使用に対する指導に関し、その情報源と収集実態の有無についてアンケート方式で調査した（表2）。来局患者が情報提供を希望する医療職種を予想させるなどの項目も含めた。

調査に際しては、目的、回答の自由意志の尊重、個人情報保護、学術目的以外では使用しない旨を説明し同意を得た。調査の内容および実施方法については、調査実施保険薬局内で充分討議を行い、厚生労働省「臨床研究に関する倫理指針」および「疫学研究に関する倫理指針」に沿ったものであることを確認した。

結果

1. アンケート回収状況および回答者内訳

保険薬局に来局した患者から得たアンケート総数は、1,253名（男性323名、女性817名、未記入113名）であった。年齢分布を図1・Iに表した。

表1 サプリメントに関するアンケート調査項目
(来局患者用)

I. 年齢
II. 来局患者のサプリメントに関する使用実態について
1. 使用経験の有無
2. 選定基準 [複数回答可]
3. 使用目的 [複数回答可]
4. 購入場所 [複数回答可]
III. サプリメントに対する来局患者の意識および満足度について
1. 希望するサプリメントに関する情報 [複数回答可]
2. 現在のサプリメントに対する満足度
IV. 来局患者の抱くサプリメントに関する情報提供者としての医療職の位置づけ
1. 医療関係者からサプリメントに関する情報提供の希望の有無
2. 来局患者が情報提供者として期待する医療職
3. 薬剤師からサプリメントに関する情報提供を受けた経験の有無

各調査項目の選択肢については、図1および図2の項目のとおり

表2 サプリメントに関するアンケート調査項目
(薬剤師用)

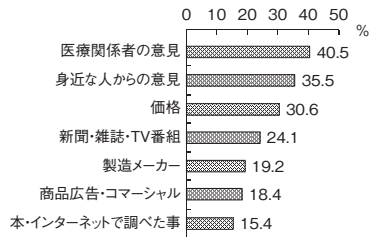
I. 来局患者がサプリメント類に関する情報提供者として期待する医療職の予想
II. サプリメント類に関する情報収集
1. 情報収集先としての知識の有無
2. 情報収集先としての活用の有無
3. 情報収集先として知っているもの [複数回答可]
4. 情報収集先として実際に活用しているもの [複数回答可]

II-3 および II-4 の選択肢については以下のとおりとした。ホームページ：国立健康栄養研究所，メディックナビ，健康食品ナビ（東京都福祉保健局），厚生労働省（保健機能食品・健康食品関連情報など），TOP/NET 薬情報（東海四県薬剤師会），その他。書籍：スキルアップのためのサプリ・トークホ相談 Q & A（静岡県薬剤師会），サプリメントアドバイザー養成講座テキスト（日本ニュートリション協会），サプリメント健康バイブル（NPO 日本サプリメント協会），その他。医療系雑誌：日経 DI，ファーマネクスト，ファーマビジョン，薬局，Rp（レシピ），その他。その他：TV 番組（ためしてガッテンなど），検索サイトから随時拾ってくる，自分の体験談，患者/知人の使用感・体験談，製造・販売メーカー・MR，サプリメントアドバイザー認定講座資料，あるたな，その他。

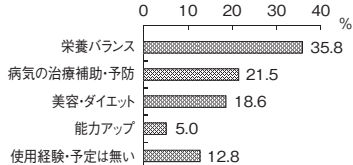
(I) アンケート回答者の年齢分布

年齢	人数	(%)
10-19	55	(4.4)
20-29	124	(9.9)
30-39	350	(27.9)
40-49	221	(17.6)
50-59	171	(13.6)
60-69	156	(12.5)
70-79	123	(9.8)
80-	27	(2.2)
不明	26	(2.1)
計	1253	(100.0)

(II-2) サプリメント類の選択に関する選定基準



(II-3) 使用目的



(II-4) 購入場所

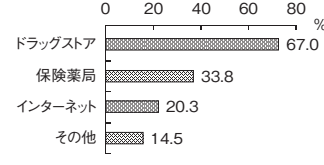


図1 来局患者のサプリメント類の使用

意識調査で回答が得られた薬剤師は 289 名であった。そのうち，サプリメント類に対する情報収集に関する調査では薬剤師 130 名の回答を得た。

2. サプリメント類使用に関する現状

アンケートに回答した来局患者のうち，サプリメント類の使用経験者は 48% であった。来局患者がサプリメント類を選ぶ際のポイントとする情報は多岐にわたっていたが，主として，他者の意見を聞いてから購入・使用する傾向が認められた（図1・II-2）。その使用目的の1位は「栄養バランス」（36%）であり，2位は「病気の治療補助・予防」（22%）であった（図1・

II-3）。購入先の1位はドラッグストア（67%）で，2位は保険薬局（34%）であった（図1・II-4）。

3. 来局患者の意識および満足度

来局患者が希望するサプリメント類に関する情報は，特に副作用・安全性に関する内容や期待される効果の科学的根拠といった事が挙げられた（図2・III-1）。また，サプリメント類の情報に対する満足度は，「十分満足」および「やや満足」を回答した割合は約 22% であった（図2・III-2）。サプリメント類を購入する際，医療関係者から情報を受けたいと希望する来局患者は 64% にのぼり，その中で「薬剤師から」の希望は約 80%

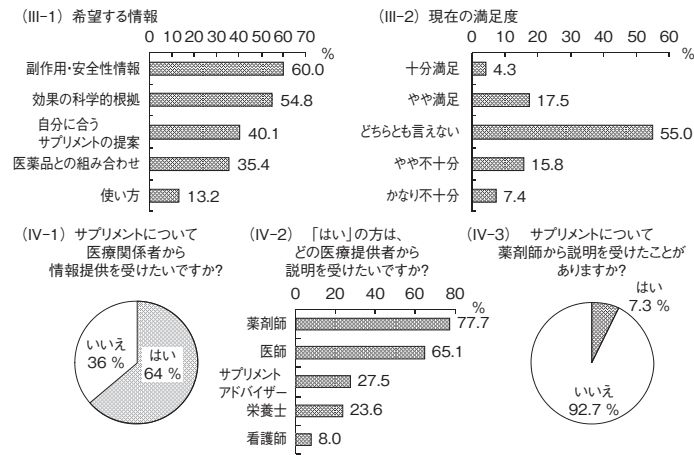


図2 来局患者のサプリメント類に関する期待と満足度

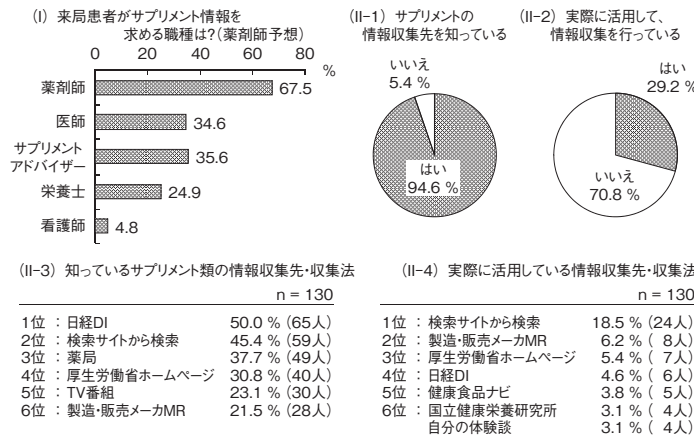


図3 サプリメント類に対する薬剤師の意識調査

と最も高かった(図2・IV-1, IV-2)。一方で、薬剤師から説明を受けたことがあるかを尋ねたところ、実際に説明を受けたことのある患者は7.3%に過ぎなかった(図2・IV-3)。

4. 薬剤師のサプリメント類に対する意識

薬剤師に対する意識調査で、調査対象となった薬剤師の65%強が「来局患者が情報提供を求める職種」として「薬剤師」を予想した(図3・I)。

サプリメント類に対する知識を得るための方法を知っていると回答した薬剤師は95%であり(図3・II-1)、「医療系雑誌(『日経DI』、『薬局』等)」、「厚生労働省のホームページ」からの情報が上位に挙げられた(図3・II-3)。一方で、実際に情報収集を行っていると回答した薬剤師は約30%であり(図3・II-2)、その方法としては「検索サイトから探してくる」という回答が1位に挙げられた(図3・II-4)。

考察

本研究では、来局患者および薬剤師のサプリメント類の使用意識や実態に関して調査を行い、これまで報告の無かったサプリメント類利用における保険薬局薬剤師の関わり方の問題点抽出を試みた。

本調査において、来局患者のサプリメント類利用者は48%となり、その購入場所に関する調査では「ドラッグストア」が最も多く、次に「保険薬局」が挙げられた。これら上位2か所は薬剤師が勤務する場所であり、その職能の発揮が期待できる。これを裏付けるように、来局患者がサプリメント類を選ぶポイントとして「医療関係者の意見」を支持する割合が最も多く、自ら本などで調べたり、商品広告を参考にしたりするよりも、専門家や使用者の意見を重視する傾向にあることが示唆された。

来局患者が希望するサプリメント類の説明内容は、順に「副作用・安全性情報」ならびに「効果の科学的

根拠」であった。これらは保険薬局内での調査という点から、薬剤師の専門職能への期待が反映されているとも考えられる。サプリメント類の利用者は何らかの疾患を抱えていることが多いと推測される。また、今以上の健康増進を求めてサプリメント類を使用する時にも、より詳細で正確な情報を有している薬剤師への期待度は高いものと考えられる。

以上のような薬剤師に対する期待がありながら、サプリメント類の情報に対する満足度の調査では、「十分満足」「やや満足」の回答割合は、わずか2割にとどまり、約8割の来局患者は不足感を感じていた。来局患者がサプリメント類を購入する際、情報提供を求める職種としては「薬剤師」が最も高く、さらに約4割の回答を得た「自分に合うサプリメントの提案」を希望するという期待もある。一方で、実際に薬剤師から説明を受けたことのある来局患者は7.3%と極端に低いことから、「薬剤師からサプリメントの説明を受けたい」という、来局患者の持つ潜在的なニーズを活かしていないと推察できる。このように、薬剤師の職能として期待されているサプリメント類に関する情報提供について、現状の薬剤師の職務行為との乖離を埋めるために、まず薬剤師側の意識改革・教育が必要不可欠であると考えられる。

朝比奈らの調査報告¹¹⁾によると、薬剤師にとって最も不足していると考えられる健康食品の情報は「医薬品との相互作用」であり、来局患者のニーズとしても高い傾向にある(約35%)ことが本研究にて示された。薬剤師がサプリメント類に関する指導・説明を行うためには、これらに関する情報を薬剤師自ら収集・学習する必要がある。しかし、サプリメント類に関する情報源として薬剤師が利用しているものには医療系雑誌や厚生労働省ホームページが上位にあるものの、その回答は50%以下であり、これらを実際に利用していると回答した薬剤師は5%しかいなかった。その一方で検索サイトから調べていると回答した薬剤師は18%にも上った。このようにサプリメント類に関する情報収集を積極的に行っている薬剤師は非常に少なく、その上、情報源がエビデンスに基づいているかどうか分からない、インターネット上の情報に頼っているのが現状であることが示された。

現代社会においてインターネットによる情報収集は一般的な行為となり、薬剤師も同様の手法で情報収集を行っているのでは、その責務を果たすために必要な情報収集を行っているとは言いがたい。また、コマースリズムが関与した企業からの情報にも影響される

と、サプリメント類原料のトレーサビリティ体制の確保やEBMに基づいた効果の担保、フードフェディズムの排除などが不完全になると考えられる。

サプリメント類の使用はプライマリ・ケア、あるいはセルフメディケーションの一端であり、使用者は対面販売の他に、インターネットを含む通信販売などでも容易に入手・使用することができる。その一方で、特に通信販売では、自身が受けている治療、服用している医薬品等について販売者側に通知すること無しに購入することができるため、逆に健康被害を生み出してしまう危険性をはらんでいる。本研究の結果から、薬剤師が来局患者に積極的にサプリメント類の使用を質問して治療薬との併用・安全性の確認を行うと共に、エビデンスに基づくサプリメント類の選択・変更の提案を行うことで、来局患者が安心して安全にサプリメント類を使用できる環境を作ることが、今後のプライマリ・ケアを担う保険薬局薬剤師の責務であると考えられる。

結 語

本研究から、来局患者は薬剤師にサプリメント類の安全性や効果についての情報提供を望んでいるものの、実際には薬剤師が来局患者の疑問に答えている例は非常に少ないことが明らかとなった。この期待に応える為には、我々薬剤師は科学的な視点から質の高い情報の収集が必要不可欠である。これに対し、多くの薬剤師は現在、エビデンスに基づくサプリメント類の情報収集には着手していないのが現状である。

今後、サプリメント類の安全性や効果に関する「情報」を重視する消費者意識を満たす為にも、保険薬局の薬剤師による、製品パッケージや広告などからでは得にくい情報の積極的提供により、患者のサプリメント類の適切な選択と使用を支援していくことが重要である。そのためにも質の高い情報収集に積極的に取り組んでいくことが、薬剤師としてプライマリ・ケアの前線に立ち、その責務を果たすために必要である。

文 献

- 1) 健康食品市場規模の推移. ニューマガジン社.
<http://www.newmagazine.ne.jp/sko-deta-05-kkibo.html>, (参照 2010-01-15)
- 2) 厚生労働省医薬食品局食品安全部長通知. 平成 17 年 2 月 28 日付. 食安発第 0228001 号
- 3) 大野綾ほか. 薬剤師による科学的根拠に基づいた健康

- 食品の指導ガイドライン. 医療薬学. 2008, vol. 34, no. 7, p. 651-657.
- 4) 大谷壽一ほか. 健康食品・サプリメントの情報. 月刊薬事. 2007, vol. 49, no. 4, p. 527-533.
 - 5) 内藤裕史. 健康食品による健康被害. アンチ・エイジング医学. 2007, vol. 3, no. 4, p. 403-408.
 - 6) 高橋久仁子. 「健康食品」とフードファディズム. 臨床栄養. 2006, vol. 109, no. 6, p. 758-760.
 - 7) 消費生活相談データベース. 独立行政法人国民生活センター.
<http://datafile.kokusen.go.jp>, (参照 2010-01-15)
 - 8) 堀美智子. 薬とサプリメントの相互作用. 医学のあゆみ. 2004, vol. 208, no. 12, p. 985-990.
 - 9) 牧野利明ほか. コエンザイム Q10 含有健康食品における成分含量と溶解性. 医療薬学. 2005, vol. 31, no. 7, p. 505-510.
 - 10) 朝比奈泰子ほか. 健康食品に関する使用実態調査研究の統合により見いだされた諸問題解決のための提案. 医薬品情報学. 2007, vol. 9, no. 2, p. 150-157.
 - 11) 本間秀彰ほか. 調剤併設ドラッグストア来局患者における健康食品の使用実態に関する基礎的調査. 医療薬学. 2007, vol. 33, no. 5, p. 457-462.
 - 12) 三村泰彦ほか. 医薬品と健康食品の相互作用に関する意識調査. 医薬ジャーナル. 2000, Vol. 36, no. 12, p. 3356-3367.
 - 13) 朝比奈泰子ほか. 患者の健康食品使用に関する薬剤師の行動実態調査. 医療薬学. 2009, vol. 35, no. 10, p. 685-692.